

# 石 二 小 だ よ り

第60号 平成30年2月2日(金)発行 文責:鈴木

【電話】0244-22-2724 【ホームページ】[http://www.minamisoma.gr.fks.ed.jp/?page\\_id=145](http://www.minamisoma.gr.fks.ed.jp/?page_id=145)

平成29年度重点目標「しっかり聞いて、しっかり話そう」

## 全国学校給食週間にちなんで



1月24日(水)から30日(火)までは、全国学校給食週間でした。これは、学校給食の意義や役割等について、児童生徒や教職員、保護者や地域住民等の方々の理解と関心を高め、学校給食のより一層の充実発展を図ることを目的に、文部科学省が定めているものです。南相馬市の学校給食でも、これにちなんで福島県内にゆかりのある行事食や郷土食が出されました。24日(水)にはじゃこサラダやずんだ団子、25日(木)にはイカにんじんや八杯豆腐、26日(金)にはいわき海星高校の実習生が南洋で捕獲してきたかじきカツバーガー、29日(月)には相馬農業高校の生徒が実習で作ったみそを使ったえのき入りみそ汁、30日(火)には鮭を使ったチャンチャン焼きなどが給食に出ました。バラエティーに富んだおいしい給食をしっかり食べて、インフルエンザや胃腸炎などには負けない体を作りましょう。

## 昔の人たちの暮らしに思いをはせて

3年生は、社会科の授業で「古い道具と昔の暮らし」という学習をしています。1月26日(金)にはその一環として南相馬市博物館に出かけ、昔ながらの古い道具を見学してきました。博物館の学芸員の方の説明を聞きながら、昔の人が使っていたみのやかさ、洗濯板やアイロン、水くみに使った桶、そして、家の中にあっただいりなど、今では見られなくなった貴重な品々を見せていただきました。ダイヤル式の電話機もあって、「そうか、今の子どもたちは生まれた時からプッシュホン式か?もしかしたら、レコードやカセットテープも知らないかも…」と思いながら説明を聞きました。子どもたちのお祖父さんやお祖母さん世代の方は、見たことや使ったことがあるかもしれませんね。



《裏面もご覧ください》

# インフルエンザの大流行に要注意!

現在猛威をふるっているインフルエンザの患者数の増加を受けて、県教育委員会では1月30日付で、「インフルエンザの流行に伴う予防対策の徹底について」という通知を出しました。下記のような内容ですので、感染予防や感染拡大の防止、罹患時の対応について各学級でも指導しましたが、ご家庭でも十分にご注意ください。

## 1 感染予防、感染拡大の防止

- (1) 規則正しい生活を送り、体調を整えること。また、体調不良時には、外出や運動を控えるなど無理をしないこと。
- (2) 外出やトイレの後、食事の前には、必ず手洗い・うがいをする。
- (3) 外出する際にはなるべく人混みを避けるとともに、咳エチケットを徹底しマスクを着用するよう努めること。
- (4) インフルエンザの感染が疑われる症状が出現した場合は、必ずマスクを着用し医療機関を受診すること。

## 2 インフルエンザ罹患時の対応

- (1) 次のような症状を認める時は、すぐに受診する。
  - ① 呼吸が速い、息苦しそうにしている
  - ② 顔色が悪い
  - ③ 嘔吐や下痢が続いている
  - ④ 落ち着きがない、遊ばない、反応が鈍い
  - ⑤ 症状が長引いて悪化してきた
- (2) 発熱に続いて、けいれん、意識障害、異常行動などが起きた時には、インフルエンザ脳症の始まりの可能性があることから、疑いがある場合には直ちに医療機関を受診する。

県感染症情報センターが1月31日付で発表した福島県感染症発生動向調査によりますと、県内の定点あたりのインフルエンザ患者数が52.83人となり、前週(48.64人)よりもさらに増加傾向にあります(インフルエンザ警報は継続中です)。相双地区でも30.40人となり(前週は24.00人)、警報レベルに入りました。県内では、会津地区が83.10人、いわき地区が69.46人、県南地区が58.14人などと患者数が多く、迅速診断キットによる検査では、A型よりB型の患者数が多くなっているそうです。また、相双地区では、RSウイルス感染症の患者数も増加しています。みんなで気を付けていきましょう。

